法然上人文証鈔

三本

仁和寺ふかき法師まうでたりけるをおごりたかぶりけるにやとかたはらいたく
かんじけりさていかでこの人をなきものにせんとおもひめぐらしけれどもかなふべきやうもなくてとしごろへにけり
さるままにこの法師年老いさらぼひてしかもかたわになりにければ
さすがにこのかたわらいたきことはおもひわすれてにやありけん
猶いきてありけりある人ごとにわれいかにしてこの法師をころしてんとはかりけれどかなはざりけるを
つくづくとおもひけるやうはかなくこの法師のしぬるやうをみてばやとのみおもひけるほどに
ある人のいはくなにわざをしてかしなんとするいかにもして

延喜式ニ仁和寺ヲ宮ト称シ
ヲ御室ト申ス 元亨釋書ニアリ

石清水　二十二社次第ニ云。三所。應神天皇　神功皇后　玉依姫ノ貞觀元年四月十五日奉　宣ノ行教和尚參籠宇佐宮。同年八月九日ニ於男山峯ニ建立ス御殿六宇ノ三宇ハ正殿三宇ハ礼殿自尓以來鎮座當山ニ。本地阿弥陀觀音勢至也二社ノ本縁云八幡ノ三所ト申ハ中ノ御殿ヲ神功皇后ノ西ノ御殿ヲ神武天皇ノ東ノ御殿ヲ大菩薩ト申ス玉葉ニ八幡縁起云。行教ノ告ニ依テ山ノ廣ノ文ノ如ク又ノ如ク御ヲ始メ奉ル事ノ有ケルヲ云々

石清水ノ別當ノ三ノ事ノ排生ノ所ニ建立ス云々尚則ヲ始テ
行幸ノ命ノ例ト定ラル 上下畧 牧愚童記ニ委シ

からうす　舂ク也 從事ヲ始ル事也 舂ク音ハ

野槌ト八幡宮護國寺別當

極樂寺　極樂寺ハ
當安宗開山也。縁起ニ大安寺傳燈大法師位安宗謹言加藍壹院号ス曰極樂寺ト。在山城國乙訓郡神足里　右件寺ノ奉ル為君達梵天帝釋天神地祇兼ネ又師僧父母六親眷屬三有法界有識無識皆悉為ニ令往生極樂淨土ニ去ル元慶漆年ノ始ノ所ニ建立也ト云々安宗ハ智光和尚之弟子也

天皇二年二月八日高良ノ神ノ託宣ニ云。吾ハ是紀氏ノ朝臣宿禰ノ姓ヲ賜ル人也ト云々孝元天皇ノ後胤武内宿禰ノ子孫ナリ社家ヨハヒノ記ニ云々

屋主忍男武雄心命――武内宿禰

八ヒヨリつゞきて松ある　うらの人　傍岸　そも　楫　失墜ハ
あくまでもあを阿着のんうらくへ　諺の大概うくいせこ
ダットうあとともおくうくハせんぬもとしむべー
是も仁和の法師の童の法師うらんとする
殘として名あそぶこと有けふ辨て無うり入あまり
傍そなは是鼎をとりて鄭
やうくうもろ紙鼻をおしてうかをさし今て
薪おうふ油庭奥へ入ことうだりたのしたづれ
でくねぬんともろれて大くわれむ油妾ことあて
いくいせんとやまどひくりどろ
うくて血ありたくまよはまみらて息もつまり
あれもおもくんとまれどのぐなて
うへくさかりくれだうるらでさやうなくて三ヒ

こと紙いと一光あるへ　今の俗ことばにいふ
うるへ　書云野鳧ニ
鼎乃字紙とあり。和名集説文云三ツ足両耳。和玉味寶
器也　書云彝事ニ遵書云彝乃字
をよめり　あてゝ　実用するなり
ことばとりつゞまやかにそ
もとりなりつゞまやかにそ鼎の内まて拭ふ
醫師乃云処　又すまし
うるへ　拭ふこと　書云拂拭
かけうせ　缺穿こと　書云穿鑿
うしき命　書云享嘗乃義ニ又俗よし
きものよし
神宝ともいふ　此歟乃あり
あそびぐんと多くむしは師とも
ふるまやかしくいふこと
ふるまやかしくいふこと　書云拂拭
かけうせ　缺穿こと　書云穿鑿
うしき命　書云享嘗乃義ニ又俗よし
きものよし
神宝ともいふ　此歟乃あり
あそびぐんと多くむしは師とも
なることにて　君乃御乃あり
俳優にて　あそびぐんと
ふるまやかしくいふこと　書云拂拭
そうぐれとあるそ　書云拂乃むしろなるへし
紀乃国人もぐれ険あ
らまよるぐいし　海にて
をしまひて　まの玉をとるなり
まそ　おのれもやく　物とりて
ぐもおのれもやく　心をあされ
ふりふるまふおを　先乃
くそ　ふりふるまふおを　先乃

奥あんてともろう事ハ心あひたりの
ハ旅もおほとおもへんぺ。ぱるるうりあまりよ奥あんん
ともろう事ハ心おもうる死おもへんとしのそんてのあるうり
なろべー　風流　遊仙嵐ゑ風流又ろさけ
あへんともあり　破子道まその破子ともし破荒
もり飯食を入ろ奥へおもへ名ゑの標子今俗所ゑ去破子よそ
出餉送ル人也　時宝ものまき山へ
時不へまりてとハ　御ゑのはおうへー
そろへー　ろまゑ喉乃字ゑ　いてうごう
しろれ　ゑゑ野遊日いてうハ甚しも傷ル痛ル
業柴もり　源氏ゑ
見るよぶうハ困乃字ゑろまゑいてう
へ　紅葉を奥んへ人もの　酒あへ
まへんの巻へ　ゑゑ野日白氏文集。桜ー尚嬉酒焼紅

いりあろうまよ
紫ズム　鄭伯拂緑苔
紅うう食物を初りおれ
ひろして　きろひうひあひろ童
大和物語うろ西八いて
蓑て綺羅る紅へぺ
うんへ金珠もり市結び
うへ。大撓もけよみんう
ましてけおとぶふもてまの
はやくこん　一切るとう
切りんへまる
児へ西月るれゑ
心あいる死　河海うゑ
みり西ぺべー
常にあろへべまへ

家の俗りやうハ云をもつてへ一ぺんをもつて
をそろ。あめをきけるときハ俗をきゝ俗を
水を飲ハ水を飲ハ淡くてをぢれるやうをてふ
なる紙乃ふるに遠戸ハ荻乃ふるもあり
るをきをそろしく於くへ一ぺんをもつてよろ
たるふるも面白く。茶乃男をも
字(ジ)をおりしい竹
山猿家乃ハんぢんとをふり
へ一さゝやう奥をあるをなれ
ろをおりをぢ
をまりなるをを
くへ 細字(コマジ)
をまつ拙(ツタナ)き問 をとをも
俗るれ山狗おねお遠(トヲ)ふ
をれをも天井をきとをそ

ねだ(ン)ふをもおりへねやうよをへ
生(ウマ)俗を男ををを
あるれるをあるをぺ(ン)ふ男乃ふり
まをきを一ぺんハ行をれおの男乃ふり
をく 書(シヨ)をを男の男をもをもてふをを面白
万事(ヨロヅ)一つのつふべきをを 荘子曰(イハク)知無用(ナキヲ)而始(ハジメテ)可与言用(ヲモチヒヲ)矣
地非不廣(ヒロシ)且大(オホシ)也人之所用(モチヒル)容足(アシヲ)耳(ノミ)然則廁足(カハヤヲ)而墾(ホリテ)之(コレヲ)致(イタル)
黄泉(コウセン)人尚有用乎。恵子曰無用(ナシ)。荘子曰然則無用之為用
亦明(アキラカ)矣

久へくへてぶりてあひろくを
おずくに落(オチ)ふく落(オチ)へくろうそをれぺ(ン)ぞなく
なれある人もおぶくへてふハもを
書(シヨ)を山狗(ヤマイヌ)し此下の俗ハ人(ヒト)よ
毎(ツネ)なへをを

いそんがごと
もとうも無乃地(ナシ)多く
そづ(ヅ)き掏(スリ)たる(ニ)ものどもをとゞ(ヂ)
めぢ(ヂ)乃人(ノ)、そのあ(ヘ)ぢ(ヂ)まで
事もそのいきもうつきあ(ヘ)ぢ(ヂ)
人の掏(スリ)ものをぬ(ヌ)すみ(ミ)人(ビト)
いつをそのがく(ク)人もそ
落(オチ)もなくあまた(タ)乃中(ナカ)
うちうちにて時(トキ)乃(ノ)
もとよりうちぬ(ヌ)人(ビト)乃(ノ)
さまざまをとゞ(ヂ)
あ(ヘ)ぢ(ヂ)まで
あ(ヘ)ぢ(ヂ)まで道(ミチ)
くぐりがりうち乃(ノ)
ひとりゐむまでいつ(ツ)
乃(ノ)やうに
ものどもとゞ(ヂ)めぢ(ヂ)
てもとゞ(ヂ)めぢ(ヂ)
あれ(レ)ども(ドモ)
らぐ(ヅ)事をゝ
掏(スリ)たる人上(カミ)
取(トリ)つゞ(ヅ)き人(ビト)
人乃(ノ)ぬ(ヌ)すみ(ミ)
あ(ヘ)ぢ(ヂ)まで
山寺(ヤマデラ)
うていもあ(ヘ)ぢ(ヂ)
人乃(ノ)見(ミ)

乃(ノ)ぬ(ヌ)すみ(ミ)
ものどもとゞ(ヂ)めぢ(ヂ)
ぐ(ヅ)事
あれ(レ)ども(ドモ)
てもとゞ(ヂ)めぢ(ヂ)
あれ(レ)ども(ドモ)
らぐ(ヅ)事をゝ
掏(スリ)たる人上(カミ)
取(トリ)つゞ(ヅ)き人(ビト)
人乃(ノ)ぬ(ヌ)すみ(ミ)
あ(ヘ)ぢ(ヂ)まで
山寺(ヤマデラ)
うていもあ(ヘ)ぢ(ヂ)
人乃(ノ)見(ミ)

うくうくとさかとハ　好事をねがひうるこさっはいりくくもも物ぐりうくをさめとそ芸道んうもを九人丸云事なるをもて向善をもり
を遁ぬ乃善丸の
名時こかうへ公家下ま。ふ野雄と沙門を院よ出家と
又稽留る。撥ん石よりり蝶舞庵書りあり
宝のんや
宝ふもと山世をもろめこ。ふ生をそんと思りん。ふ乃真
ありてう。ふ多男よ法うへ家我ろりうういとるいまり
うくん。ふも縁りひうまてうつ物なれで。ふるれいまり
き切ドぐ〳〵
山等二部ハ彼家よありうくへ人りまでろとも投世を乗
りんまうろうべきうへとうよ道んうもをゆくへ世をとうれ
てうづるてハ滅ぬしてうるをりり

うかそし山世をもろれとも　ゆこふは生を滅乃
世をもろれ〳〵とうる我て。ふ心不生ふ滅のさりのこと
りうべさ修行をせんとうるこうむ
ら色の生死界を出離をもろむのん
くりうとハ　生死をあるこ
なりっこふ世をもろれ
も何乃いさうあくんとのろうさり
ふも縁りひうれてうさるまざ老死の
うる縁よもうまて。ふ我おこり
あをうりうまでふ縁よひうまて。妻るを害ん生業と
そうハいをれむ〳〵乃人をもろべ。ふ世れ
居ろて。ふ我をもろべ。ふ縁よへても。ふ我を

ものをけがらはしくてはあしきことなればさるべ
きことうつくしき世をむさぼるふかきこころなどあ
るべくもあらんさまでとてもなどいふべきにはあ
らず一度道に入て世をいとふ人は貪欲(ムサボリ)の心うすく紙(カミ)の衣(コロモ)
麻(アサ)の衣(コロモ)一鉢(ハチ)乃(ノ)ほかはいるものなく人ぜいの
法(ノリ)のともがらをもきんりんにむつまじくもとめ
ず第三番(ダイサンバン)には彼(カノ)世わたりは衣食(イショク)のたぐひ
ありかぐらいは衣食(イショク)のたぐひ
世をいとふ人のむさぼりあつめたるものにはあ
らずして常(ツネ)住(ジュウ)修行(シュギャウ)せんとのみ
ものうけれど世をそむきたるしるしにや
ものうけれど世をそむきたるしるしにや
ものうけれど世をそむきたるしるしにや

聽用二鉢盂一有二瓦鉢一有鐵鉢
麁云苑菟夫。布衾銘。藪叢之艸。綿布之温。名教之樂。德義之尊。求之孔易貯之常安。
衣麻乞食。
如是等。
是名二頭陀一
資生具
一鉢乞食
一衣
一坐
一常坐不臥
一隨得
一中食
一阿蘭若
一糞掃衣
一三衣
一塚間
一樹下
一露地
一次第乞
一節食
一但中食
一不飲漿
一不過限
一不受人請
一不受僧請
一不受別請
一不受別食
一不受別衣
一不受別住
一不受別坐
一不受別臥
一不受別藥

出家ハ一世をのがれる人さへ善よ
ちくばさあるべきことにて。一時を空しく
くるまもつとめ。剃髪染衣乞食をもとる
事いまれなりと道心者乃ちからまことに
さとりをひらく世をむさぼるふかきの
ありといへどもそれハ
家をいでゝ人よ施をうけてハ
菩提よ期りむさぼる人ハ
第子の肇公乃ほよ云。道之
渚師。道と雖ども。天台大師ハ菩提を智恵と乃
と婬欲乃畜生ニさへ近れまじ
多くさとりあるの乃
とつゝしみあるべし。涅槃經ニ曰。身雖大夫行同
畜生ニさへ近れまじ

ゆゑ二乃ほ世の字と
の二字と線路道と
寺令院の抄と遊拯軒の
向羅什云。雖白衣作能發無上心者。如三界形雖
有繫乃真出家と
ら家よりも
ふたゞり
人ハまれ
ありぬ
世をそむきて
ありとも
大事をおりひきん人ハ

かい紙とりだしてさうぢ
をする番頭乃ほん編をまさ吟ぢ
もうしばらくいつまでもよいもの
大事を取りひきんとお
お頭乃生死(しょうじ)をおんとも取りひ
きの事をさ
心配乃奥よりそこ老ろうく人
情(なさけ)までのそびうつ
それぞれ当推(あて)ともれもそ
うくうの筆さ

さはいしまそて御ぢ
ろうくのろ人ぬ御ぢ
まうそてもあまでこ
じおさらぢうぬやうよ

八十三

ハつそびおさうりて事乃
あり日しなうべくさ
筆二節あれより去(さり)ぢそ
推(あて)んとろう人ぬありさう
さ取りひさぢ死事をつ
やあくんと八それくの事乃知をとりぢて
御(ぢ)ふく道心取をさびん
てうり とぢうてあま
経あぢとん 世を推(あて)ぢ
ま事(ごと)を浮世(うき)りてづひ
事乃幸ことをとびおり
乃隆(ひ)ろうとをあぢ
地ほう人をろうぬ

まく枝を一ぢへもぐ先ろ
第三第ぷもとりろ心ハ
人とゆーめとり　　あるやうハ　大ぜいとつれ地る
すこーんあろとりてよ　　猶ろんあろ人をそ
あろまゝそでそよ　　道心ねそんろあろまゝぐり
まく彼去ぐろ紀世事ニひられて当いぐろニ一動をそ
ふいあまゝ　　紀事でとふく先いまーめ多そぷあろ
まゝといよけろまいあろとりまゝそくなどいよ
とりいたろんをそーてそ堀河百首の哥　そろ
ろ。命そ人をまり抽ろいそ　　ムそ命ろ来ろろハみ先せ
ろ
ちくさやるぶふまぐろ人いおぐ
くゝもとれ　　山猫そろろ
ともれぞ酔をもろくりろぐ賊をもそくのぐれぐろそ

むろとりも連ぐよのぐれぐろ時おろ親いそ紀
ろさま。元紀恩人紀情の指ぐーひそ指ぐろんや
をようろあ先多人紀をそ彼あゝまーみそろ
人そいまー先の云常ろ来ろれむ油ありろく大
ろをおりひろてそそめて一路を次ーあり
ちろ紀先事ぐに　　多
とおり人そぐーひそ指ぐろんや
と大事と物人そくぐいそぐとませ
ま油ろもろ事のそろぐれそべそれ
いおちい人を猶それへ
ろくちろあまう当て紀世ろろよへてのちよ換ろんと
紀それちてのぐ　　をそさる
とふていろをろあてのぐ。暴水猫ぐも教のぐろへー
云そろまろろろ来連ろふ先ましろてろぐれぐ紀

拍紙あるうち油斷せずして心得悔むべきことのいまだ免れざること。止觀七曰若覺無常遇於暴水猛風製羊電山海空市無逃避處下畧。往生要集もまた文あり　うち臨終のときかんぬし附屬をうけし時とも　常已よりこれを行時とうきせよ。

心とめんあらせまじ。往生極樂の妙因院乃帝非華經乃妻子珍寶及王位歸命終時不隨者とのことを時統ずくに十九ヶ條出家せうの外のつたぐひ誰もあるべきやうなきことにしてらひとべきやうなし。拍紙山院もはやうハ道心乱まさせのひて。浮俗悔の生業も抛ちうえこそ盛親僧都しくりいもぐらしらつよ拍紙こみそて抛ほくをひろり渓義乃座までも拍りさうう縁よりぐくもりて

ひざりとふをきりくひあ事あるよハ七日二七日なだやうよう死いもぐらをえ前乃病紙いやうくり人よくらひうそくひ主治。醫師ま病ひ療治として籠居て抛ほくをひろり人のとさぐえんく。永方くぱくとうくうぬてぃもぐしかぐぶ又こと用にりうこうてもあれうなりまうり。二百疋乃拍紙くそそひくう被うぐあうぐ紙道心着なりとぞ人のとひそさるをを

我も老ぬべき年ごろ也。かつがつ学問に怠るべからず。大舎人の綱丸
学問無双の人にもありき。その家乃ち姓なれば也。
ますも如くに思われよりそ
世業にてその業自生にて大方人にすぐれたる事
なし。おのれ仕うまつる供奉をはじめ人丸おとゝ
ふたくに時もこれ人丸おとゝ
ろうにをもとめ。我おろかなるをもしらず。
食ろくにかゝりきれでおのれ
妙法をも人にしらしめんとて
うめく暁にも食て務つとめそれぞ員をも事こゝろにて
いつゝうたゝまずあまつさへ人丸のことにさくまでの員をあ
われもいく歌をもよむぞんをもちてうたさまあり
きるべし。常なるねさめ
ようなれどもこれ乃ち歌
は妙乃ち道の心にて学問の歌
をもゆるしたものこゝろ
人丸世よりすぐれりと。おの乃ち人丸をおもひ立
らんと志ざす事あるをの人のあざけりやあ
うまじ乃心を物して一大事をおもひ立
たることをゆるして人丸
の義をうたへ
みことをもことゝ
食の字
妙乃ち歌は三十一字の大事一ケ条にてあり
とく記すべし
行跡のこと
注釈には秀逸乃ち歌
聖乃ち官位もあり。

天楽院　仁和寺院下とや
経福聖人　めくら
なぐさむ草ふた巻は
宗もとゝ家うべ
宗乃ち法橋
橘園人の俤大江卿をのづ
杜子美清ら俤竹亭白日

雜次云燈所以照釋書以燈譬能破暗也

ときは朝昼も

薩說四食時一日時爲天食二午時爲法食時佛斷六趣日令同三世佛故制日午爲法食正時也僧祇律云午時日影過一髮一瞬即是非時

虛のまわりそや

は羽肝要

でござる人のやうに

てうろうろ

虛を

放蕩

ござるのと

胞衣

ねもないもの

賤

大事

望

御誕生

誕生

こうはのまどさんりもそのまま

ござる

望

御誕生

誕生

集曰將鮑切韻云飢音與勝同和名加豆之岐炊飯器也

雙紙

哥書

いふ字治乃賓蒐蓮華王院

なぐの事

延政門院

動て大納言(ダイナゴン)清(キヨ)まろの神(カウ)祭(ズイ)をとさ。暮(クレ)れ初(ソメ)る程(ホド)に又(マタ)結(ユヒ)をかしう(カシ)て濯(ソヽ)ぎたまふ。
て。玉(ギヨクタイ)躰(ヲ)ながらも二(ニ)つ巻(マキ)乃(ノ)ま(マ)ゝ
又(マタ)結(ユヒ)なども濯(ソヽ)くなり
日(ヒ)阿遮梨耶(アジヤリヤ)唐言(トウゴン)軌範(キハン)　善提資糧論云(ゼンダイシリヤウロンニイフ)阿遮梨夜(アジヤリヤ)隨言(ズイゴン)
正行(シヤウギヤウ)ト　南山抄云(ナンザンセウニイフ)能(ヨク)糾正(キウシヤウ)弟子(デシ)行(ギヤウ)故(ユヘ)ニ
ぃ師(シ)をあがめ(アガ)ゝ
一(ヒト)まれ相(アヒ)ハ　三(サン)年乃(ネンノ)若(ワカ)相(サウ)山(ザン)清(シヨウ)涼(リヤウ)法乃中(ホフノナカ)あ
つまる(ツドル)ゝ乃(ノ)ゆゑ(ユヘ)ぺ御(ゴ)修法(シユホフ)ハ天長地久(テンチヤウチキウ)又穀成就乃(コクジヤウジユノ)
為(タメ)あ(ア)ま(マ)ねく(ネク)ゝ始(ハジ)よ(ヨ)ゝ(ヨ)ろ(ロ)ゝ(ヨ)ろ(ロ)ゝ(ヨ)ろ(ロ

准南子曰聖人見輪蓬而造車古史考曰黄帝作車ヲ
少昊時略加牛ヲ禹時奚仲駕
ばんの乃冠しむるところあるものなり
あるの人物をせられ古代の冠擁をとりたる人なるを
たゞして今用ふるなり

冠擁　まことに冠名にして冠の
入物をいふをいまでもいひ
縫ふごとくして紙乃内を縫
ものをつゞくる　聖徳太子冠擁のごとく紙にてつゞくべし
日本冠乃始は此時代推古天皇より聖徳太子十二
階乃冠を制しより　さて此七代若狭天皇淳宇天皇大化三
年七月十三階乃冠を制しより又十九階乃冠を制
給ひより又此九代天智天皇より北六階の冠を制し
給ひより　皆今の世乃冠なり　紗冠烏帽子

ども四十二代天武天皇乃御時より始まりたるなり
冕冠ノ制ハ白布ニテ一枚ヲ以テ冠ノ形ヲ
拵ヘ其ノ上ニ黒ノ羅ヲ張リ冠ノ前ニ
仰ぎ見るごとくするものなり　一枚
拵へつゝけたる故なり　武勝ハ
冕冠ノ制ニ倣ヒ冠ノ前ニ仰ぎ見ルごとくするものなり
此冠ハ第四十二代天武天皇ノ御時ニ始まりたるなり
冕冠の制由　寿永家平乃一流なり

入政大臣　摂政関白　南白左大臣　南白左大臣　号岡本院白左大臣
近衛　兼経―基平―家基―家平―経忠―経家　子孫ナシ
号岡屋　号深心院　号浄妙寺　左大臣　南白左大臣
経平―基嗣　此末流今ノ近衛殿也
号後岡屋　号後浄妙寺

る一双をそなへて
寿物とす 野趣亦用ゐるに
まゐりぬ 葉をつゞりてつゝみ
をるなり 一説に たゝん葉とそのゝ
四ツ 五枚をつゞりて 雄を左
そなへて 雌を右とあぎて
なりと 雄は雌を賞祝をうけ
ものやうに作るなり 或説に
はくるまゝ常の葉にて大
朝雄をくゝりはさむ時の作法
はさむなり 又一説に 二尺
雌雄一双をはさむとも 又大
一尺四五寸小杉を
もちゐ 根びきをそなへ
葡則祝 又四条大納言隆親卿の説に 榮の
雌雄一双をはさむとも 又大
一尺四五寸小杉を
もちゐ 根びきをそなへ
葡則祝 又四条大納言隆親卿の説に 榮の
雌雄一双をはさむとも 又大
一尺四五寸小杉を
もちゐ 根びきをそなへ
葡則祝 又四条大納言隆親卿の説に 榮の

野よりくみもてくる雄をそなへ
そのゝち 初てかのそなへものをとり
山路をくゝ義家の勢古山路を
小うるゝ杉の枝を折て
十月のはゝ 葉よりわかれ
下毛野武勝 新撰姓氏録云下毛野朝臣崇神天皇皇
子豊城入彦命之後也 日本紀 武勝ノ系圖可尋之
もよるをはさむるとゝのへ 武勝ノ説ニ
膳部の事をとりもつふうふ 兎角
ふるべくまゝとゝのへ
武勝が申侍しは 雄雌の杉つゞりをもちゐ
うはさくゝ 葉ふるゝ 或は七尺 或は五尺の
しゝぐれのふりまるを 杉つゝりまるを
ふるぐありぞ 杉つゝりまるを 杉つゝりまるを

乃ち其ふしのうらにてまりて半の如くにて
うちをむべし。初雪乃あしたに松をふうそくに
みるまゐて赤くそめたる大こんを
はたそでにおのづとおちたりのこをはたらきて雪にあとを
のこし不乃こゝろ掏(カウラ)ともいふべくおもしろくぞ。初雪と
雪まつよいとをかしきものなれば
よめぎをとるまでなれど略のごとくとゝめき

あれはたれぞとゝ(トヾ)武勝ごいひそかにみちびく
せり　　松乃木蔭
掏りつゝ　　野趣そゞろ行にしもすゞしげ
なりけり
つまよりてそこらをきりそぐをみしに云

おさなくきくりてあるたけのこ
茹(ユデ)るまでありてとりあげ又はりく扇(アフ)ようなる
葉をとりてそのたけのこをつゝみて
おもしをかけおくべし

なべらに葛　はたごらのこゝろ
けりを二布ゆひはたらくこゝろ
乃ごとくもゝ引あげ紙を
毛剃(ソリ)にてよくおとしてよりて
を武勝ごのもの　よりて
あるよりひらもの　雑の尾乃はたまぼうふあるもやう
みるもの不可　掏(ほる)二つあるやうにはたごりあるもの
をも掏(カウラ)家乃ごとく
よく掏(カウラ)れむ　らんうんするにはたをおさへ
おさへ　大こんはたの左法(サホウ)ありて又はりく扇(アフ)ようなる
葉をとりてそのたけのこをつゝみて長月ごりよ
掏りてはたごりはりて雑(ゾウ)をつゝみて
おもしをかけおくべし

もろこしのいくさも伊勢物語にてみしりぬべし
しうねゝや
春のこゝろはのどけしと見る人によりてやものは悲しき
猶ゞもりうるはるさめよ
をひさきなき雲雀哉
九月の空へ野梅を。伊勢物語。むめの花さきかをかしかりけり
ちるさまと中〳〵梅月夜
うつろふ梅につくり梅
うぐひすもむめ〳〵あるもの哉
みぢかけれどもむめで有りそれでよしとくをうぐひす
おもしろくはるのよ猫の
春冬之部
古寺大仏再興 法橋公慶
わらひ絵乃梅もちるなり 忠仁公筆天安二月十旨
賀茂の岩本摂家争 業平
忠仁公筆 桜井花見 業平
伊勢物語
ほとゝぎす
ほとゝぎすあまたこえつゝ
ほとゝぎすなくや五月のあやめ草
ほとゝぎすなくや五月のあやめ草
ほとゝぎすなくや五月のあやめ草

りつまをもろもろ　葉平八　宇城天皇乃清涼御保親
乃孔又男たる右近衛中将と　一条坊門の南高倉乃
西ノ家もてちまち死去しぬ　乃三明抄よりてあり。大和
きありとや。西業集にも哭乃歌ともあり
為よ　かごりそれ名ぬ　小一条左大臣師尹公の
乃ろしたり　家乃
孫侍従宰時乃ふるく。右近中将まで　なのがりて哥人
たりしを。一条院の御時ぬ大納言成忠乃娘乃まう
りて。陸奥へ左遷せしもこの
やうりそんみっぎりそれ
お我ものと　家方乃　まりぬれむ　泥乃もづくを
ふきくるし　童蒙抄よりて　長恨哥を
うふきちれくふてうをぞ

みそしよ　そうり　文司乃　陸奥乃
まりあて　門　森もとを
くるおとなれど　かな
なるべし　指牟やな我
ううし川乃むしの
ちくそれを　無
乙亥四月五日生法　諱道快。養和元年十一月六日。改名
慈圓。山門六十二代座主。居東山吉水。嘉禄元年九月廿
五日滅。年七十一。和漢三才二月八日。遁慈鎮　吉水八今
乃九心より　寿云
てハヨヒウとのみ
ふり。月をと
よくく

業平乃清涼御保親
王乃孫侍従宰時と
ふり。三条坊門の南高倉乃
西ノ家もてちまち死去
乃三明抄よりてあり。大和
きありとや。西業集にも哭乃歌ともあり
為よ　かごりそれ名ぬ　小一条左大臣師尹公の
乃ろしたり　家乃
孫侍従宰時乃ふるく。右近中将まで　なのがりて哥人
たりしを。一条院の御時ぬ大納言成忠乃娘乃まう
りて。陸奥へ左遷せしもこの
やうりそんみっぎりそれ
お我ものと　家方乃　まりぬれむ　泥乃もづくを
ふきくるし　童蒙抄よりて　長恨哥を
うふきちれくふてうをぞ

ましてそのこと いうべくもあらず 抑も八宗兼学の人まれなりしたる事
今出河院近衛と申して集どりおほかる時常に百そ九十をとこそ
て書て多くは一巻ばかりやんごとなき人ぞ
りあること物の序 作文詩歌管絃
そこもとをかしき人にてはべりき
と申河院の近衛 いまでがのおんうへ
乃つがれ事〳〵書抄え今も
并摂関 実氏公乃孫 中宮嬉子 即画図
弘安六年八月十三日 為尼 歳
六十七 近衛と申 局也 大炊御門殿流大納言伊平
女也 伊予内侍 道上人 実伊 伊信 なども
子孫也 撰抄六巻

乃家 九歳の時より 草木とりどりに 続古今
つまでおよそ五代の勅撰 あまた 詞
も作り 歌作集 も 行状 注華経十万部 書
今の時又月々 菖蒲 宴 夜
ひとりて 指大納言 申 宮 ふ
夢にまれ人々 新拾遺 今出河院 近習 憚て
も称ふ 人 集 本朝書
季吟 歌作集 日本の 文 集 本朝
月々二十巻のうち乃 ものつれ 他 入
さうさう 詞書 名 詞乃
人の号 あうさう 序 辞 文
箱紫 りあげ の柳 侯 侯
古物 を第 うて 筆

領使管領六郡ノ
雅集註云當 昔福和名於保禰 俗用大根二字ヲ
ヲヽヒきゝりて 蘿卜來せ左傳社預註輕行掩其不備曰
襲下 曰ヒあゝよゝ
人くゝいゝん。押領使が二人の名ゝ向河ノ
朝ごゝ却ゝ 野挺云大根也和名ニ云爾ゝ

蒜茶ノ之類。遇旱ニ其操多結成ル花ヲ如蓮花ノ作ス。竜虵之形ヲ此常
性無足ル者。熙寧中李寘知潤州ニ園中菜花。悉成荷花ノ形ヲ
各有一佛坐于花中ニ形如雕刻ノ。莫知其ノ數ノ暴ニ乾之ヲ其ノ相依然ノ
或云李君之家。奉佛ヲ甚篤。因テ此ニ有異
書写の上人ハ法華讀須乃功ヲ積ノ人ゝりゝも。藤ノ
ゝをゝて竟ニ終ニ奠ゝゝ者ゝ此ゝ
ゝゝゝぬをの

きめ給ふ事なれども。其ひろき事をしめさんとて。我ひろき事かくのごとくなりと。ゆびをひろげ給ふ事なりと。ある僧のとき給ふ

此經又信心の一念をもつて。性空上人の法華獨一無二の根淨を讃歎し給ふ

書寫上人　寿永の頃の人也。母ハ源氏。空十歳。持法華三十六出家。乃往日向國霧嶋に結庵而居。永延二年。化人来告云。幡摩書寫山是靈鷲嶺之一峯也。居此者。發菩提心得六根淨。空至山。結庵西洞。葺以席。紙楮爲衣。山鳥野獸来自馴。創寺曰圓教寺。空於山中。毎年三九月轉法華爲國民之福。增賀法師在多武峯求上紙空送之。賀歎息曰。性空者。其淨六根者歟。寛弘四年三月十三日誦法華而寂。年八十。　元亨釈書及撰集抄未有之

六根淨うる　注義

て眼耳鼻舌身意の六根淸淨なる功德品うとうり。性空上人ま經意よりうるひてら根あらうる人まりうとのみ。法華經法師功德品曰。尒時佛告常精進菩薩摩訶薩。若善男子善女人受持是法華經。若讀。若誦。若解說。若書寫。是人當得八百眼功德。千二百耳功德。八百鼻功德。千二百舌功德。八百身功德。千二百意功德。以是功德。莊嚴六根。皆令清淨　下畧　又同經云復次常精進。若善男子善女人。受持此經。若讀。若誦。若解說。若書寫。得千二百耳功德。以是清淨耳聞三千大千世界下至阿鼻地獄上至有頂。其中內外種種所有語言音聲象聲。馬聲。牛聲。車聲。啼哭聲。愁歎聲。螺聲。鼓聲。鐘聲。鈴聲。笑聲。語聲。男聲。女聲。童子聲。童女聲。法聲。非法

聲。苦聲。樂聲。凡夫聲。聖人聲。喜聲。不喜聲。天聲。龍
聲。夜叉聲。乾闥婆聲。阿修羅聲。迦樓羅聲。緊那羅聲。摩
睺羅伽聲。火聲。水聲。風聲。地獄聲。畜生聲。餓鬼聲。比丘
比丘尼聲。聲聞聲。辟支佛聲。菩薩聲。佛聲。以要言之
三千大千世界中一切內外所有諸聲雖未得天耳以父母所生清淨
常耳皆悉聞知 言音聲之
差別而不分別 如是等聲
我今略說 略說猶多況復廣說

魏文帝嘗令東阿王曹植七步作詩不成者當行大法應聲爲詩云
煮豆持作羹漉豉以爲汁萁在釜下然豆在釜中泣本自同根生相
煎何太急帝深有慙色 漉豉字子建魏諸侯第也

矢張云以殺止人之六根淨
如是之人應受如是之報 如是之人應受如是之報
如是之人應受如是之報 如是之人應受如是之報
如是之人應受如是之報 如是之人應受如是之報

天子渚一代ニ一度ヅヽ大嘗会ヲ始メラルヽ時清暑堂ノ御神楽トイフアルヲ清暑堂ノ御神楽ト云ハ清暑堂ニテ行ハルヽ御神楽ノ事ナリ一条禅閤説ニハ清暑堂ハ大極殿八省院ノ十二堂ノ内ノ一也大極殿ノ後ニアリ清暑堂ノ御神楽ハ大極殿ノ後ニテ行ハルヽ事ナリト云ヘリ

清涼殿ノ御神楽ハ毎年ニ行ハルヽ事ナレドモ清暑堂ノ御神楽ハ大嘗会ノ年ニ限リテ行ハルヽ事ナリ

或ハ云ク清暑堂ノ御神楽ハ大嘗会ノ年ニ限リテ行ハルヽ事ナレドモ清涼殿ノ御神楽ハ毎年ニ行ハルヽ事ナリト

清涼殿ノ御神楽ハ毎年ニ行ハルヽ事ナレドモ清暑堂ノ御神楽ハ大嘗会ノ年ニ限リテ行ハルヽ事ナリ

北山抄云御清暑堂有御遊事。其儀。堂中間設御倚子。右立置物御机。御後及両遍於屏風。軒廊雙行設王卿座。其南横敷侍臣座。天慶九年例如此。又儀御座ニ殿上王卿依召着座。即給酒肴。穀倉院儲餝。并管絃舞人。皆取近衛舎人。又召内教坊妓女。奏和調。唱神歌。次変調奏雅曲歌ヲ下畧

云上　野橋ノ霜ヲ踏ム色乃名残リ雪上ノ二字ヲ云ヘルナリ

ふむと濁ンでよむ。あら食なり

枕草子。渭橋。云名ゆるどあり

禁秘抄ニ云上。累代宝物也。置中殿御門厨子。根源撿人不知之。掃部頭負敷渡唐之時所渡比巴二面。其一依紫檀直甲也。大実人云。紫檀不可過六七寸直甲之条不信ゆく。但此甲非只物紫檀也。凡此比巴云脉云声未尽未曽有物也。為霊物。人為跡之時。有貴人。如何跡ヲ云ヘルヲ人夢ニ皆著直衣人也。霊物中ニモ

越他以不淨手不可取著云霞自近比有沙汰有豐
并墓（霧唐綾無文ノ也墓ハ猶貝ノ）此比巴霊験内裡焼亡之時飛出擬面
文消所々有赤色不知其縁代々有沙汰ホ宝後房云
良通之比巴移玄上彼擬面文不可違彼唐人打毬形也
或云玄象呑青鉢之水所謂号玄象又玄上宰相献延
喜帝仍号玄上両説也但妙音院入道付玄上説歟
蔵亭の御
琴云々
牧馬与玄上一双名物也時人不知勝劣初信義弾玄上信明
時雅三位息信明博雅三位息両人弾牧馬更云甲乙信明弾牧馬其声雲
深故時人皆云信明超信義玄上勝牧馬云々野司
おうとさぐるべし不作を執一の上あるまじき程
と気ぶるひあるべし一ー秀ひ義山絵の眼目なり

風心猶最もつよく醍醐の程いみじくありがたし　かく續飯を用ゐる
多きこと　神供を被神供の後飯ふく干て哀なり醍醐の役義を
ふるまふ程の地ならではえあらじ　ああもうれしき
まねびかな　今も尋ね参る女房のまねをぞせまほしき
ゆゑ

名をさくりやうて面部をかくすもうるさし
乃ち時そ又ゆかしきもの新参る人々
なるべし。男物詣をさそひて物見車にそ乗せ
ゐてそろそろと行。人も今見るひとみの中に地

よ物をくれる事ハ雖もうく哭ぬ又いくらも
多くいつも人のいつもも同じ物も飽ぬ我んのうち
もらふる事乃ならやうにいつまでもくれ
物よどこも満さ事ありうくものうや

寄云此段ハくれる事雖ハ有ふべき物
いふ所ハ有ふる物ハ居ふるあふ
ハ乃物ハふさ物ハ仏堂ふ仏乃
物ハふさ家乃うちふ子孫の
のものハ死頽ふ作善をなくて
乃んぐふねハ又車のふ。墓ふ乃ちり
ハ跡ハ如ふ乃又移ふて物ふ一さ物とぶん
るふねハ物とをくりうや

調度　野掛ふ調ふの
家乃うちふ子孫の又ふ家の肥ふとめでふさ夏
ふ男子則ふ嚊とおるふもふ
ふ物をも一切乃具を調ふ
といふとんめべー　家乃うちふ子孫の又ふ家の肥ふとめでふさ夏
ふ男子則ふ嚊とおるふもふ
ふ物をも一切乃具を調ふ

野掛ふ

具ハ武具ハ衣服ハ雑物ハふる具ハ
よ中下ありハ仏像ハ圖ハ見ハ
よ巻ハで詰ハふ絵ハ載ふ
ハ乃ハ。絵ハ一切乃具を調ふ
といふとんめべー　家乃うちふ子孫の又ふ家の肥ふとめでふさ夏
ふ男子則ふ嚊とおるふもふ
ふ物をも一切乃具を調ふ

野掛ふ

道楽ハ公ハ仏ハ物ハほくてまふ
人ふりあひく詞の又ハ
物をハあつふハれふ中よ
物ふべーとふりぬふこふ
ハふりぬふ初ふふもハふり
ハふりぬふ仏堂ふ薩ハ
ハび仏堂ふ薩ハ
像を供養ハ或ハ経典を写
作善ふいふり　乳又とハ　乳くハ二世ふ楽
乳又ふ或ハ仏
作善ふりく
乳又ふ或ハ仏
作善ふりく
乳又ふ或ハ仏
作善ふりく

朱雀院平賊後被修法會願文

奉圖觀音像六鋪　菅相公 補正也　淺江相公

奉寫法華經六部

右奉御願文

圓融院四十九日御願文

奉造白檀阿弥陀佛像一軀。觀世音菩薩像各一軀

得大勢至菩薩像各一軀

奉寫金字妙法蓮華經一部八巻　無量

義經　觀普賢經　阿弥陀經般若心經各一巻

以前經佛供養濱説云云　下畧

物ありくてかくるゝもうしろめたう又のあや妙なり

九月在戸　十月蟋蟀　入我床下　あれ蟋蟀の字を中納言毛詩七月篇七月在野　八月在宇

安至て上下乃文をもの〻ふかくおもひ入たるさま也源氏物語などふかき文法あまたあり又車のゝ

事云〻ふるき函八今禁中よりいだす又あるもあり　莊子云恵子多方其書五車　晉張華雅好書籍身死之日家無餘財惟有文書溢于机案　後漢書二十乗

事云〻巻をとりかさねてつゝむ　掃ふ　曝涼云なり

此條も世俗塵云如くをいものてそこ〻ろ

てうそうごとの物をうりあるく商人
屋うちにそれぞれのしなじなをならべおく人いてきあきなう
類ごとの屋 ヤ
そこにひとりさもちうりしてゐるもあり
くて中あるうるほふ 賑人 ニギハヒ
とみてくふをそうごとの物をいとうんも惣
らうそくぬるあまうふんめんごんろうのあかりをつくる
屋をうり 野槌 ノヅチ
云つまそうごとき 又我も
鼻の穴とぢめそ
そうれてうりあるこ
ふるんうり

せんともやそで人のひとりまうれだき
屋 云くくもうり是亦屋云乃ひとつなり
つま 表云そうくなり
人をどうもぬべきそ
是又屋云乃一つなり
なれであるうがうて中あるとひきい
屋云乃一ふうり 人の裏どうそうごと 是又
物もう人あるふ 薄 ニンザ 屋物
彼人うさんうれて
物もいそで中居こ
やそそ 垂 ハ 人うり
泳ままふもつまべし
世の事ひと

下ざ画乃人丸物像を真
あやまりこと成ることに
是へ下(ゲ)後乃うへへ奇(キ)怪乃ことく事とへ
人のこゝろもたゝさるへし
るをハ明らかなり
ことへ野槌を論語述而篇乃子不語怪力乱神乃
あらんや。あれを世俗(ゾク)の虚(ウソ)
きゝ人〳〵ことなしの
くあひゝらひて偏(ヘン)よ信(シン)
いまゝの筆(フデ)の走(ハシ)りよ虚(ウソ)
るのあまたゝひさ

で字あらんへさんそ一旦を楽(タノ)せり　かくハ
ひとゝハ　偽(イツハ)りさ世(ヨ)を
物(モノ)　野槌(ツチ)乃化(ケ)物よ
変(ヘン)奇(キ)特(ドク)又祢(ネ)乃不測(フシギ)乃
人よあらんそう抔(ナド)云(イ)紀(ヘ)ども不思義(フシギ)なるへし一ツ
いつわりと定めつゝしとも
ふへきやう　祢(ネ)なとゝ
もれしう人とうつ　あるも
さ要(カナメ)りよあるもハ今(イマ)迄(マデ)乃そう云(イフ)多
いふ化(ケ)物(モノ)　をこゝまて
とゝなり　ふしぎ
さ祇(ソモ)そ〳〵ごと成(ナル)ひくも
ふへきやう　おもふに
前(マヘ)乃なり

蜂乃ごとくあつまりて赤面地にふるるさまあり賊(ゾク)さわぐを老(オヒ)たる家(イヘ)ながらまどひくるしむ形(カタチ)をみてやむことあたはず

くるしむことをうれひいとなむ一生(イツシヤウ)をうるものことごとくあつまりて命(イノチ)の又(マタ)全(マツタ)からんことをねがふ人(ヒト)ありつまおやこ六(ムツ)親(シン)を思(オモ)ひて人(ヒト)の生(イノチ)をむさぼりとる

蜂乃ごとくあつまりて身(ミ)をやしなふ

蜂子厚云(コウイフ)蜂附蜜(ハチツケミツ)蜂(バチ)

合(ガツ)又云(マタイフ)蠭(ホウ)仁蜂(ニンバチ)蜂(バチ)

野(ノ)蜂(バチ)

趨(スウ)同(ドウ)

あつまりてよろこぶ事(コト)

とまりあひさかひのごとく

此(コノ)章(シヤウ)二節(ニセツ)ハ死(シ)のまぬかるゝ事(コト)をいふ

ハ行(ギヤウ)のごとく

おほぜいむさぼり利(リ)をあつめてとゞまることをいふ

身(ミ)をやしなひてよろこぶ

畢竟(ヒツキヤウ)老死(ラウシ)のまぬかるゝをねがふ

とく 一念(イチネン)のごとく

これをまねびあひさかひのごとく

此(コノ)生(イノチ)をうばはれぬ前(マヘ)にとくとくこの生(イノチ)をうばはれてもかのごとくあつまりて

ちることをうらむる人ハ又死生を悪ふ
嫌(ニクム)ることしらんことをおもひて変化の理をさとらず
此篇三段の意ハ彼名利を悪ミ死をうれふるものと
なるとハいへ名利ハ死ぬるまでハのがれがたく
ことをもせんすべなくつらき身なれバ
いつく一時を楽しミ
のんきをもちて名利の
名利ハ逃(ノガ)れ
溺(オボ)らして
冥途(メイド)へ死てもしら
ぬ
ことなれバ
死をいとふ
ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

ぬ
ことをうらむる人ハ死を悪ミ
嫌(ニクム)ることしらんことをおもひて変化の理をさとらず
此篇三段の意ハ彼名利を悪ミ死をうれふるものと
なるとハいへ名利ハ死ぬるまでハのがれがたく
ことをもせんすべなくつらき身なれバ
いつく一時を楽しミ
のんきをもちて名利の
名利ハ逃(ノガ)れ
溺(オボ)らして
冥途(メイド)へ死てもしら
ぬ
ことなれバ
死をいとふ
ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

ハなくこゝろ
よくあるべき
事なり
うのまひ
まどつてハ
天地の
生死変化の理
悟(サト)ることハ
死を
歎(ナゲ)くべき
事にハ
あらず
と
なり

物要をふるくいとひのごとくうり抜数去うそ〳〵と支ぜ
をねざりーゆくゆくてうくろうろうろう

てこうまでくくをもくれとものんのうり
生活。人事。伎能。学問等ヲやりよ　まのえ野同
止観第四云。縁務有四。一生活二人事三伎能四学向ト云
生活ヲ為命ヲトヽノエ産業ヲリ。人ノ人ヲ人ノ交ヨ淘ゲ
リあづくこ。伎能ハよろづの芸能ヲ学ヒ向ヘ内外ノ古今
こるらふりかやうりもも皆我ノさりとなれど
さそこやくとなり。已止観ノ証ノ如シ　臨雪抄云止観曰縁
務妨禅由来甚矣。又云縁務ハ者経記生方触途紛絆得一失
一喪道乱心。二人事ヨ者慶弔。俯仰。低昂。造聘。此徃彼来。来
徃不絶。三伎能者。医方卜筮。泥木彩画。碁書。咒術等是也
四学問者。読誦経論。問答勝負等是也。領持記憶心勞志
倦。言論往復。水濁珠暗。何ノ假更得修止観耶。此事尚捨ツ
況ヤ前三務ヲヤ　野抽云。智顗字徳安。天台大師ト号也。智者
大師ト申ス事ハ尚高ク嗣法ヲトリテ自解發明
の人ノくく。法苑ノ者ヲよくくをもり。陳隋二代の帝よ
まみて。師範とるおり。隋ちお住ちて妙法
蓮花経ノ題号ヲ釈ちをて玄義ヲ玄文ヲ釈ちをて文句ヲ
文句ヲ釈ちる残ノ十巻ヲて摩訶止観トの。摩訶ハ梵語ニ
十巻あり。止観三十巻ヲ年ちと号ちて。天台ハ懸河流海の弁
舌なれバて。ちる妙楽大師。湛然ヲ釈ちをてその事ヲ章安灌頂ノ記せり
あり。文句ヲ注ちるヲ入疏記ト云十巻。玄義ヲ注ちるヲ
ちて弘決ト云。輔行記ト云。合三十巻ニて天台六十巻ト
名ばく。合三十巻ニて天台六十巻ト云。已上三十巻ヲ来十巻ト
儒書荘老諸家ノ経ヲ引ゆくよ。日本ノくく具事親ニ仲
範勧修寺ノ経ヲ引ゆくよ。日本ノくく具事親ニ仲
天台家系図

恵文――思大（一名恵思）――智者――灌頂　章安――智威――
恵威――玄朗――湛然妙楽――道邃――最澄　傳教大師

西の地ぐにもこれやうの人ぼくもりそうあるべし
ありそう人ぼくもりそうあるべし
つまでいひ入るべくてぞ
きあるべくとも注釈を人ぐ
ひ給きおの給りつまじ
給そうりそれをうそ
りあるまりきるをまして一さび西をとるれく
聖注釈などいそれをん人ようくてのこあもう
その義をそ
苑乃人より　ものびうまじ
慾欲乃あるは　野えび威八死苦
威をも婚礼移礼移礼猶礼猶等の時もあり。

のひ入るべくもとこたう
あてそのおろうまを
注釈をれをきやうまあ
もも　めりそうぬべ
つまくとりくそうん
二程乃寂静をいつま一
瞋比丘親近王一臣　そ
西中よ我れ比人のそてあ
つそうハあるぬ人ぬくく
とひきあるそうう
ひづまを注釈なでそで世乃人の
いそでぶりきそうくんと
まえ云は給もお給の給
いひそやうをそ

一着心寂静而　身不寂静謂無貪

つまとてのみすまし人こそ　うき事もてねとは　西行
せしもぬく　もぐさくさ葉ねのごとく
もえこ　蒜ねを遠西乃方
さえしくい双紙うくを
る　いひちらを先
をり

とやうのものどものかづ
うえうそもの世よこと
寿云先又蒜乃俗をう
とは　面世やうの俗称
おのうまもてよといつ
いそさしの人をれあ
りおくるどのようそ
らひたしてぬ人うんびおもうる世

きんとうぬ人のうう
あれより人うんのだ
をいまし先より　とそ
いまう人をそ　あそこ
かくりりそふそやふ
詞　西乃名は　人
のようどち　うりあ
ぬ人うり　彼と文の人
をれねろびうひ
何もも入をねさ海
とそまこりがやい
そ蒜のろよのうう
まづーさかもあ
人うりよくまう人たう

つゝねこうつゝでそれ
をまた又おのれ銘〻よくこゝろ
うつゝあるまゝでこゝまでの事ぞどの
あるをもむつゝりそれなどもと
とも 孔子のたまへる 野趣云
所謂(いはゆる)漢石碣(カンセキケイ)などをうつしとりて家帝(イヘテイ)
あるぞと思へど筆(ふで)をみてくるに足(あし)と云のまゝ
るをもうつりていつぐ聖人の大廟(タイビウ)よ入(いり)くるごとく
思(おも)ふる事もあり さればよ世(よ)つゝこゝろもあ
ど 世(よ)うつゝ八卦語(ハケゴ)。教人(をしへびと)の中(うち)にみこゝろ方(かた)
きるあかをるなどの田舎人(いなかびと)をれど京都(きやうと)をかど
ようくこゝろてつゝくれるもあ
いうつゝとつゝるこゝろ

て自慢(じまん)の氣(き)をうつゝ(うつ)ありくさ海(うみ)の道(カタチ)うつゝ
ことも 曰(いはく) 野趣云
容止(ようし)先挙(まづあげ)とつゝるに要(えう)をへしと礼記(らいき)の容止(ようし)とこゝを人(ひと)
人ごとふ事(こと)ありこゝろそのまゝの。注釈(ちうしやく)八(は)
道(みち)をこゝて。表(ひやう)をうつゝくをこゝろ
一連歌一管絃(くわんげん)をまつゝ
をまぐれうつゝ八(は)人(ひと)よこゝろ
おまぐれうつゝ海(うみ)つゝ人(ひと)のようをもつゝひち
らにも仏会(ぶつゑ)と云(いふ)ことをうつゝ
身(み)うつゝ(うつ)おもはざる経(きやう)をよむ
乱(らん)を治(をさ)むるうつゝ(うつ)ありこゝろ
卿(けい)うつゝをこゝろてうつゝ
ふくいうこゝろをうつゝ
合(あは)ねうつゝ(うつ)経(きやう)をよむ

ひごつまはる師乃世よる海じ
ひしりよりぬ仁師のうへ
秀枕草野枢云あるそいいる武士を云
氣色もろ　されどをろろ
家しろろをたるひてるもそ
らねるいふふく称ろ氣色
りねねなんどぬそ善ろ紀ろ
ほ師のこふあるど止重於庵ビ
武をこのむ人物かりり百多ひ戦
勇乃名を云めぐくまる氣い
御勇若よあるどと云人ろ
よ敵ろ！隆ど云をやもろくた
さろるりいそろん程し武ぶ
禽戦りちきよるもひぬそ

ろより武家乃称ふ武をこ
ほをもあ残ぎてまたりと見し
あるより一位とせり道雄卿
らもびのぐ師後よろぐ
季吟云職原抄云公卿。搢政商白及三公。是公也。散一位及
三位已上。是卿也。参議者。維四位猶卿也　三公ハ太政大臣
左右大臣散一位ト八一位ト叙ス云ヲ云ヒ一ノ位ヨリ叙ス
テ友ひきく人ぐとりぬをか二位ノ人ヲ公卿ノ字相ヲ卿
殿上人　毛を云家とのりぬ人をご居ス人とし
四位ヲ位六位ヨリ下ノ人ヲ云ヒ
かくござりで武をあのむ人物
まてぐこ云ヲ乃事をりとう
野枢云。左傳。衛公子列吁ノ嬖人之ヲ也ト有リ而好兵ノ又曰

列ー吁阻ー兵ーヲ而安ー恐ヲ阻ー兵ーヲ無ー衆ー安ー恐ヲ無ー親ー衆ー叛ー親離ー難ー
以テ滅ー矣ー夫レ兵ー猶ー火也ー弗ー戢ー將ー自ー焚ー也　百ー戦百ー勝ー
百ー戦ビ百ー勝ー　ありて武ある人の武をおて
無ー勇ー紀ー事ー之ー一ー旦ー之ー忿ー　忘ー軀ー以ー殉ー之ー匹ー夫ー之ー勇ー也ー
多ー有ー力ー武ー勇ー之ー士ー　去ー得ー一ー者ー百ー戦百ー勝ー
軍ー之ー衆ー　あることし敵也　軍ー之ー衆ー紀ー時ー天ー
たとひ武勇ある人も敵
あるときはそれを猶ーれ
兵ーつき矢きまりて　軍ー法ー
矢も射つくしてとも王希ー邑ー朝ー漢ー李陵ー詩ー云ー撮ー髪ー児ー男ー
重ー之ー恩ー　兵ー被ー矢ー竭ー死ー無ー門ー秋ー高ー若ー遇ー南ー来ー雁ー休ー説ー劉ー家ー
李廣孫ー子ー秒ー　敵ー
かうさんせぬ
人倫ー

人ーくて人を斬ー決ー夏ー
ラるれおるーぬ人ありそ
そありーあーそそーろ眼目ー
備ー云ー廃ー人之ー剣ー蓬ー頭ー突ー鬢ー
自ー而ー治ー難ー相ー撃ー於ー前ー上ー斬ー頭ー
異ー於ー闘ー雞ー　所ー云ー祝ー雞ー犬ー
ひ小ー家ー　ー
乃ーぐれーなりー
へ武ー
いーるーをーろーめーぐー
ぬーまーて武ー
試ー
扇ー風ー藩ー
そーろーぐー

大方りてそう親屋そくもぴんぼりせうそく夜ハさねべ
さみこうそくおをおへしとあしぼ擯せごんもちそ
ちんれをくそくきちりよ
をそそりどしちそへまづしむそ風
めしそ屋うそくぴつそくあのそ女をつそみつ
て抱ぐしうそうそぐしそをそりぴはいへもをく
をりり
書云ぼりてう親屋まで心をはこべしとお十ばりり
大そそ家居よそそそそそとハ屏風障子などのう紙
ばとぬのしおそ　又そ
うらつまがそうとなり　ふるくとハ　いやしそうそ物
むそれおしそんうべし　おうりそうり
せしそそそふべしそひそうそうそ夏をつそ
ものへ　ばのへもうそて抱ぐしうそうそぐしそ
ハ紙白方うそふそうべし可甘

とりもそそくそ表紙へとく擯ぐろがりびしそんなのひ
よぴぼぴぐ羅ハ上下をづぴ。螺細乃軸へ貝ぬちてばそて
つこぐそなとぬ作しそ。一冊と西
ぬそなどの如ぐやうそうそ
弘離傍紙ぐ抱をとうそんしそ一具りとのんとをろつそ
ぬそをぬくもうそぴ。不そ
うぐく如ぐしりり
ばハいおぬうり。擯ぜそうそんもあそて不ぬくんそそそ
そそふそぬぐとうそて古あそそ。畢竟ハりのく
十あよ調りうそをそそそる作りんをうそてんろ
てくそう　うそをぬくそ
ぬべし　紙形　二条
一流うり。為明の新格そ擬ひりひ生涯を
つたに紙形繍くそのへり。所著并蛭抄あり。家集を

菴集とも又續草菴集あり。和奇乃宮天皇の
勅を蒙り淨弘兼好等と中よく打ちつれ
もろともに東山双林寺の墓とりあり
寄抄等を編ありて後世に傳ふ兼好と
あるひくる多く往來ありと
聖細なり。書を好み乃ち軸(ジク)を
傳ふ 野槌云。檀少傳弘融。文保二年十月於二押小路
亭一隨分將爲仲入道一受二古今和哥集訓說一云々。建武比与兼
好房有同緣故弘融古今集と仁和寺乃居住を預置。貞和
年伊賀國佛娃寺遍照院に居住を。時歳六十一
いうくなくなりぬ 弘融がことをし兼好のかひなき
をぞ傳へ皆これとくのかりしるべあるをまもりぬものこと
しうるをまて打をきてうちうちに
心裏生(ウム)しるくもうくしるべ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるりう和尚なんなれどもやうなんとそ出家し給ひよるり。洞院左大臣殿をぜひ甘んじまうして御堂の御堂地をこれ事の御りまうへ何をこれ事をお給りまをでて何る給りといつる左乃御編ご乃給りうへのふあらぶて人の身乃上もまんをへとをり上べーとをるべー

竹林院へ入乃左大臣　参うる云野日西園寺公衡公御子孫祖父母をも存と号をも　季綱云公衡息應長八年八月よ判鬱ーをり

職員令云大臣一人。師範一人。佐四海。経邦論道。変理陰陽。無其人則闕。この次よ則朝乃政とのり

一上　左大臣乃事　職原抄云左大臣一人　相當正従二位　官中乃事。一向左大臣流領之故云一上ー　洞院左大臣殿

季綱云野日洞院実雄公の従一位左大臣の山階と号也。季綱云

実雄公を西園寺大臣公経公息之　甘心をして

甘心乃字待徒伯字篇よりあり。鄭注云甘厭也んとあるふ義なり。此ハ厭ふまくハんとり甘くをり上んと

相國　左大臣乃うる名。漢云百官表云相國秦官金印紫綬掌丞天子助理万機ーは二人の大臣をも乃御り

多くハあーこをもをうくをりのるをりをり云事

元敬の悔ありとやうこと侍る也。月こもていうけ給ふりまくハ此をうふ義乃つまりあるふ砂ふりちをり

元ハ高をり。善抄云野樞云

決せり　元敬の悔ありー

易乾卦上九云亢龍有悔。象云亢龍有悔の盈不可久也。又曰亢龍有悔与時偕極。亢之為言也。知進而不知退。知存而不知亡。知得而不知喪　月こもていうけ　季云釋名云月闕也。滿

則缺　抑そもそもこれ　范曄公侍云物盛則必衰
そのはじまりあるはやがておわりをむかうをさまるはかならずみだるるをもとをさまるはかならずみだるるをもとをさまるはかならずみだるるをもと

我等俗男二衆編年遍諭生死之苦野趣香
茶一會之興也 夫云見法華經之人
法名をいふ 夫天竺
那ハ上座 慶三代ノ
百代ノ号地名さおゐて
乃趣名とそ
等ハ 法師の
とすべし意 鮮人崔溥
といひ優庵ともいふ
をねがふ
しいぐとし
乃時覚
曰東晋沙門法顯 節
昊狀 問之 答 有是事 便詣
聖人血也 當時見為 食
捨宅為寺 見晋支雑録
ゐてそうろうねんく
野趣云他ほをもく
かしろ詞 僧ハ
俗称ノ詞をもちゐそうろうねんく
都すべてなしそうろふ

逢迎顯時遇疾 主人上座 親事經理 勅沙弥為客僧之見
本郷齊食 俄忽往還 脚有疿血云 往彭城呉ハ蒼鷹家
求食 為犬所齧顯 旋轉之間而遊數方里外 方悟二寺
僧并非常人也 後隨船還國 故往彭城 追訪得呉蒼鷹
昊狀問之 答 有是事 便詣 餘血塗門之霧 頭目 此羅漢
聖人血也 當時見為 食
捨宅為寺 見晋支雑録

ゐてそうろうねんく
野趣云他ほをもく
かしろ詞 僧ハ
俗称ノ詞をもちゐそうろうねんく
都すべてなしそうろふ

悟る比類のこと勿論。世人ともり超越して優
ともやさしきこと勿論。たゞまつる注釈よろこ
人のこゝろをもて人をおもふこと勿論。
どもをおづ〳〵云出乃ち人の賢をとんでうや
らんど人の賢をとんでうやむやのはなり
此時人の賢をとんでうやむやのはなり
為をまもるべし〳〵そこをうたがふこと勿論。
をとれをこゝろ　夢云廉直なり　をのづからと　孟子云
気質よりこれ人欲よ　天性のまゝ　庵直なる
着やれうまで　偽のこゝろなくいひ〳〵うやむやのはなり
乃人をこゝろまで　自然の直
忠信こゝろ　野一齋云論語ようす堂之邑有
をこゝろ　愚は性　をのまゝ
をこゝろ　愚乃意　庵直なる人なれど人の賢
愚直をこゝろ　愚乃意　庵直なる人なれど人の賢

てをそれなりあるをこゝろ　やむやのはなり
こゝろ　き人なりこと　野一齋云論語ようす堂仁篇見賢
思齊焉　この句こゝろ
いつてをこゝろ人
こゝろ　賢乃意
ぞ偽こゝろ利をこゝろ
たゞこゝろ　をのまゝ
うばこゝろ　小利をこゝろ
こゝろ　賢をみこゝろ
人のこゝろ　賢をこゝろ
賢こゝろ人をこゝろ
殺。娼疾　人こゝろ　毒而遠こゝろ　野一齋云
やこゝろ利をこゝろ
こゝろ人こゝろ

つまて、若行よ如りそれを。先天下をいのづり活つ
やうよ大とな利をそんがうあふ。賢人ぞをいひて
君子乃小利をうそべふうそべふうそべふ
ど倫ふうて賢人のうをうそべふうそべふ
をのれづうそべふうそべふうそべふ
も悪乃人といまひる朝くぺ悪乃をのまう利を
乃うそべふ賢人の清悪なうありふ倫てふうふ
てうう　ふうねといふ　かうふうそべふうそべふ
たうひ倫うてまふ小利をうそべふうそべふうそべふ
下悪性　孟子論語陽貨篇。上智与下愚不移。野鬼
倫うて小利をも捨てべふうそべふうそべふ
そうる朝ふ倫ふうて大をうそべふうそべふ
うそて賢人い利のまふ倫てふをあてんふうそに
ふうそ私ど悪乃んうありふうそべふうそべふ
又悪乃人を倫ふうて大利のまふいうそべふうそべふ
も捨せびふうそべふうそべふうそべふ
をまうふべふうそべふうそべふうそべふ
遠慮私乃事うへふうそべふうそべふうそべふ
まもおよありいう新救よふうそべふうそべふ
賢をまう事うへふうそべふうそべふうそべふ
ずふうそべふうそべふうそべふうそべふ
悪を学ぶうそべふうそべふうそべふうそべふ
かうふうそべふうそべふうそべふうそべふ
らう別狂人なり。悪人のまもとして大病をて
邊をまう事ふ邊乃そまうふ帝をまうふ賢乃倫ふ
倫てまう賢をまれぐんを賢人とのうへ
そまうたまひうそありふうそべふうそべふ
をまれぐべふうそべふうそべふうそべふ

狂人のまゝにして　善云。禅話ニ狂人走不レ狂人走ル
淮南子ニ云。狂者東走遂者東走則同所以東走則
異リ　野用之　惡人のまゝ　善云楊子法言ニ云ク人之性ハ
善悪混。修其善則為善人。修其悪則為悪人　野用ク
驥を学ても　字彙ニ云驥千里馬也。ゝの法ハ乗るあて
もなき里をゆんしやうひごとく　善云楊子法言
一ニ曰。睹レ驥之馬。亦驥之乗也。睹レ顔之人。亦顔之徒也　野用ク
窮をまもるハ窮九法ニ曰ク窮レ理ヲ盡レ性ヲ以テ至レ於命ニ
なりくだり。孟子盡心上篇ニ云。鶏鳴而起。孳孳為善者。舜之徒也。
為善ニ着ク　註ニ孳孳ハ勤勉之意ニ云。雖未レ至ニ於聖人ニ亦是聖人之徒也
蹠盗蹠也
惟継中納言　風月のすに
て。読経もせぬ法師乃咲伊俗ニ同家ニ
行ひもおろそかなる僧乃たぐひ。窮をもつぱ
ら修行ハ時。坊をまにあいて
浮坊をもてこゝろざす法師とこゝろ
ハ同ぜねども。なるゝ名ハ今
日なりけり
惟継　考云。一本ニ
伊嗣と書。誤也。惟継中納言平氏。西洞院嫡流也。元
徳二年任ニ参議ニ。建武二年任ニ文章博士ニ。暦應五
年出家。七十六歳。法名宴儀。康永二年四月十八日卒
七十八歳　野用ク
精進　善云訶の字なり
とゝろくハ　野用ク　ほとゝぎすなくあの字
弘決ニ云。無レ難故精。無レ間故進。ほとゝぎすを勉て他ゝ
ぎすにいつり。今魚るくらいぼうを精をとりて
教生戒のん

まや。それもたづぬべくもあらず　あれより
惟継の秀句の物ぐるひ
をこそ。山法師とハ三井寺の僧
僧正　寿云伊予軍大納言乃孫。風雅集にもお権僧正
寂連乃愚侍(ヒテ)歌乃ふぜいなどよめる歌　實氏乃雅(ガ)も人めを
法師ぞとよめる歌是まそ拾遺
秀句　寿云遠遠乃物ごとにまもりてを謝
詩の戯云なり　寿云昔ふる作者部類をとりあつめ
とつぐどもて古歌を抜乃詞を用べきこと
みだりに大(ホ)高一とつの上秀句ともやうの
り似ずして又さもあるべし

下部ども酒のまうせる事ちんもとめさこと也。宇治殿
御ぐしをよこ。家よ奥(カクバ)院とてあまたあさたる遁世
乃僧をこもうとなりくれど常よりもむつびくり。或
時遅(オソ)くまゐりければ我法師ばらつどひゐたるを
つさのをとこ一人ゐてこなせさ物ともて酒を出しぬれバ
さうをくくとのみてめーくゑひぐ
ゐたるもあるもあり。なかぐぶ不(コ)慥乃おぢみ
くあひもたるに山男(ヲトコ)たちもむひて。自尊(ナラ)ふる山中ふ
あやしきそとやりいへとも。なほ法師(ボウル)乃兵士(ヒヤウジ)あまた
人も皆大刀わきさ矢もちてひさまづきゐれど
もりてうたれーくとをひさまづきをを弓矢を
うんといひてゆるしてゆーと酔(ヱ)ふまよひ出
ぬ。それ(ゾ)を追(オ)てゆくものの

そのまゝ酔ふてゐる名住ん[illegible]とそろをぬそろ
たり刀もつくくなつくいろりてひざり
きりおく[illegible]ぬきて心ぐもちるとの[illegible]つを言まれだ望人へ
おこりて出あ[illegible]を我こうやまぐもちといひく岩りかく
つまほくなりまりそりぐる紙。あまそ[illegible]てまぬりせ折ふを
てたぐりそりぐるハ魚つまそて守治大路乃あまもそつまへ
きりあまそ[illegible]をてそのこぐもあまきそつかゑ
まで。具学ん坊ハくちもの[illegible]あにふひふ[illegible]もろと。物お
てうさきてきりぐ紀念生まれど。腸きり接ぜうまて
かうまふなりまりり

はぬ乃んを露縮りあ[illegible]ぬりぐ新ハ方言ます。たく
みぐりまりて酔狂もそ抱なれだんをべーとのんく
下約　まこ下劣乃若とこん
等云ふづひをぐさとく　あろもとぐき事
等云ふづひをぐさとく　あろもとぐき事
ふまめきたる　風流優美

乃僧ぬりーとも
まーくもろく　眠ムツミ
初ぐ学治まで八きぬとる
るれぐりつきゆくものの第く　口法き乃男とハ
一盃せき勧ーとりんぐ。去器ぐり三度入。ぬ入るどりまこ
も一盃づーこぐくむりの抱りさちぬる出茶を三度の
ちろく。ぬ入七度入ぐる抱りんぐさまでを一度八一盃と
いもろなるぬ抱り。一服よ一出と出そぐり
づ。一七思ーぐるもこと抱べぐりん　まこ
のこね　まこきーうけく飲白ぐ。夕影の妻をよ。ぐと
ぬきねとありぐ八なくぬ海よ。君んぬりぐくく
くとりくこ抱をのくぐくぐくや六帖源語
類聚よぐ八紙ーとあ
まく　四ぬ　兵士あまく　弓左乃なとりぐぬみこぐを

引きしめあるべし　扨んとうそりなく　扨んとうそりなく
るれんぐさのごとくにて人をころすことあり
そこふしきと古今にある詞　まげてさま方乃
百種を植くそのかをとそりあるそり
みつまくるの入さるる　ひさごりよ　かつりてをうや
ハ栀を云うもあり。書をもらてゐるさるごくそっ　もつて入そり　ぬりのあをと
その宿うそてもあり　くちなしりふ　未幡ふ
書云呻吟そり
或着小野道風がかけるとて和渓朗詠集とて
をある人。洛和俗うそうそ
大納云撰まうる物紙。ろ風うんる。は代やあびし俗
らん和うなくこうとのひそぎいをこう世よ
あっが紙物ふ作りけまとていよく和蘭しそり

書云山脂画癖うてせんうる紀をあぎそる
垂吟云おりて画乃性うべしとものしそ氣
の物ごうりをのまそを絵うなよ人の賢なる
うやこそ番をうあちごひて脈をあうもろ
よてなふぶりて画癖なりのハ法乃ごくせん
うる紙物りさまでは法をんそくの画のたらし
も智ふのまごあふいひあのるふくをこめて
学うけよの業よ
松乃風物語寛平五年生。村上天皇，康保三年十一月
卒。七十一歳　河海云。本工藤小野道風。正曰位下参
議峯守孫太宰大貳葛絖男　野相云一説は廻云又
多り生そく
和渓朗詠集　弄花抄云昌三位生
よ朗詠集を撰うそ。紀淑望
が作るうと云とうく不同。

詩文あまたぞ。只今傳はらず。惜むべし。教通云々を參考すべし。

○村上春樹云。

どさくさにて不審紙。朗詠部に文集乃字あるべきなり。

つまり。詠ハ言を永くするなり。

て字をそへたるなり。

をゝしひあつ先ゝ有。和漢ともにいふ。一說に詩文ハ古體の詩

乃あつめたり。ハ詩ハ律詩の時の事乃をいふ。

どのやうなる說乃出たるにや。

はゝ信ずるなり。

じ也。野槌云。

大納言　孝公位ゝ。康保三年生。万寿三年入乃時

六十一歲　乃風死去ハ治生乃年也。

秘藏　善云美乃字。

無比之以爲大一寶。周容閑而觀之。主人夜七日。端處之服。

發突。草槌十寸。提中十寸。

ニ慈右也。主人大怒云々。

望越云ゝの出羽鮮人の編乃筆。苑雜記乃乃ゝ。

云ゝ。周子二三人遊山寺。見二畫佛一。題其二

曰孔子潛。呉通子畫。藏載書。或云古畫必妙。盡神而去

哉。有強拂事者。云。孔子周人也。漢明帝時。佛法始入中國

謂二孔子潛一佛無理。且呉道子唐人。安有二呉道子畫而孔子

潛乎。蘇軾生於千歲之後。安得与孔子同時而書所著

潛乎。必後世好事者所爲也。子等昔年少。不拂事信之

后。於一貴公子家。見此畫。乃稱古今第一。而爲畫潛之首

乎。審潛視之。則所謂孔子潛者。列子所言。孔子曰。西方有

大聖人。名曰佛。不言而信。不化而化。云爲而化云也。藏軾取而書之。

前日強拂事者之言。可笑之一笑。後世不知本末。而強解者。

者。皆此類也。

奥山より猫ざるといふものの
乃いひそうなんぷるもこまでうまも猫乃へあがりて
ねまるふまりて人をくらうふ
そうな物八あるもの物をとり番ニ
の毛(木)りの色そうがやそびとり
しふこうとするけるあろうもなくまく義みる
まで連ニのしくそでひとりかへりそうなぶ川のそこ
まくぶるふまく猫きこあやまこ
こそやでそうくまふ頸乃なをくんとした肝(きも)も
うをそ物をんとをろにかもなくぶ川へ
あろびへくあすをうやねこまくさけべぶ蒸
より松どもりてそうんもろ侍りあそ
犯ねこもの乃中ニりつぐ
ニるれで連ニの乃ち番とれりて扇小判乃

懐(ふところ)ねりそうし水ニ入ぬ春ふしてありたい
さうまくそうぐあニ入ニりかへそうなのくあ
まで(ニ)をもりてそびはニりそうそ

寿ニんのくりくよをろうを編してお限うり
吹手もろこ更流ニ憶病(ひびう)なるもよくぶけ
られも限(ふく)もろこ更流ニこと古の也うり　猫まく
和名猫音苗(べうみょう)術婦女(ふじょ)をおくて水をうぶ　野猫云金花猫(きんくわべう)八黄乃猫乃ぶけく
あろうくそを治ぶ。唯(ゆい)猫よ地乃ふれうる八雄(を)をとくて
ニまを治をしのニと。須臾(しゅゆ)浜。月令(げつれい)廣義(くわうぎ)るどの古ふ
乃しあり　和名抄陀仏(だぶつ)　阿字乃(あじの)あり仏あニぶけく
とりをむう。も関乃(せき)乃ぶ連ニの家道ありしいうり
時ふり連ニの卵(らん)乃仏ニとハそろよあるとた
うるうぬくぶ。更流ニ時ふ乃ふよく字廿八字字うて

あるこ　行脚する　寿云小川の草堂乃ち号なり
野梅ゝ元享釈書十四云。釈行円。摸西人。寛弘二年
遊二帝城一頭二藏人一寶二冠。身一披二草服一。都卜峰。西草庵上一人。
於二賀茂神祠側一営二行預寺一為二草堂一　小川乃ちこゝをいふ
乃名りこゝる黄色地をもて染たる布
水のふかきあり一大圃秀吉公の時りを地をひきこ
こうとのもの所まで作也
く　たとけうやねこまさしやまや
まやこゝあり。鶯なくぐいすやくこ
活仏納云乃集のうふ　ふるれよなそいひ八景竹の
ゝーをへうろおもそあこゝ山ふるうよなそかふ山ふる
初乃待ゝ　連云の乃ゝをふ連云のり
賭とそ答やおをくぐりーとやり　秀云ニ　まん

そのるまくだをうろりーとう　ん
かひくなの　納云
おりくなーを云
大納云活本のめ活云
の納云く常ふ山亀ひ
いばくへひうそ叩うぐ
とりをやをそうる男う
ひそぐいん頭をぞ
乃みくさりそん

云ふをうなるくおくく　大納云活本
大納云八活本ふりーん像の名号ぶ　聖衆乃像乃名号ぶ
官名を活く受学平活本乃時時ふりそぐはりけう
くやそう　芸のそ安らんと書歌　神うさあ芸
芸のそそりーめうん　神うさあ芸

赤舌日といふ 二十陰陽乃 沙汰もさこと也 ある人
ある日ついまいでぬ此日ものを
うつ此日おくる事未とそ
事ぞくらしことおるつ
くりそくるり事なし
撰てものしきうまぐれ
いとーかるべーその
ものもをび始あり
経も人のふ不
も従ぐる山理を
西日より善を
くらして日ふ
此説ハ云常多易乃
事乃必ふるべきを

世衆なれぞ日そ
ふるよ必西へ
いつり若日を
ぬをぞへてらん七
云かの
通書大全云
用之

ごとくなり云日也
赤口日忌會客證事買賣
史漢云赤口日乃多活用ず簋簋ハ陰
陽家る秘してをおさぐ
こと也

赤舌日

陰陽道　職員令云陰陽頭掌天文
曆數風雲氣色奏聞事令義解云天文者日月五星
二十八宿也曆數者計日月之度數而造曆授時也
賀茂氏一家知天文曆數之兩道之事安倍清明惠
天文道以來分爲賀茂安倍之二家

又ひとつ
らぬる乃ありも事なるべーとく
乃ふらいをれ〳〵ふりふるる
ものをいとんとそく

うつろ〻〻 [illegible] 仰ぐ。涅槃經。諸行無常。是生滅法。生滅已。寂滅爲樂。天台四門。有門。空門。非有非空門。亦有亦空門。

みそ一ついくつをかぞへても　そこをこえ易し彼の彼岸

法橋なり。扨乃至なりうつろ〻〻　吉日の卦を

うらなふるにあらず。野馬塵埃のごとく幻化なり　まぼろしのごとくあるにあらず。幻化のごとくあるにあらず　吉日の卦の爻をう

徒然草文段抄卷之三終